

岡垣町ふるさと大使

町の魅力を国内外へ発信

岡垣町にゆかりのあるさまざまな分野で活躍されている方を「岡垣町ふるさと大使」に任命し、まちの魅力を日本国内や海外に発信してもらっています。大使と町民がお互いに応援し合うことで、相互の絆を深め、お互いを高め合っていく関係を築くことが目的です。現在、ふるさと大使は安河内哲也さん、池田信太郎さん、えもときまよひさんの3名です。



安河内 哲也さん

昭和42年生まれ。一般財団法人実用英語推進機構の代表理事、東進ハイスクール講師を務めているほか、文部科学省の英語教育の在り方に関する有識者会議の委員も務められました。現在は大学受験の4技能化に向けて積極的に活動されています。

全国に誇れる「岡垣」を

「英語なんて言葉なんだ！こんなものやれば誰だってできるよっになる！」
というテレビコマーシャルで全国的に知られる安河内さん。文科省の英語教育の在り方に関する有識者会議委員を務められたほか、現在も実用英語推進機構代表理事を務めるなど積極的活動を続けています。

「生まれは北九州市ですが、山田小学校、海老津小学校、岡垣中学校に通いました。小学生のときはソフトボール、中学では水泳部で、部活休みには自転車で町を走り回り、野山を探検する子ども時代を過ごしました」

高校時代に、今につながる英語のすばらしさを知ったといいます。

「英語に興味を持ったのは、残念ながら英語の授業ではなく、海外の音楽や映画の影響ですね。進学は、外国語として『英語』を学べる上智大学外国語学部英語学科に入りました。在学中も講義レベルの高さからよく勉強しました」

平成27年に岡垣町ふるさと大使に就任、現在も町の英語教育のアドバイザーとして活躍しています。

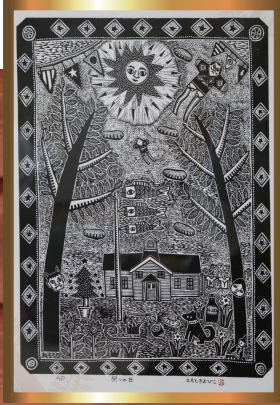
「岡垣を離れて、東京に住んでみて、初めて郷里の自然のすばらしさ、食べ物がいっぱいことなどが分かります。これからも全国に誇れる『岡垣』になれるように微力ではありますがお手伝いさせていただきます」と話します。



岡垣町英語教育改革

イニシアティブ2016

岡垣町では子どもたちが将来、社会で活躍するために必要不可欠な英語教育の充実に取り組みするため、「岡垣町英語教育改革ワーキングチーム」を結成しました。チームは、町内中学校の英語教諭で構成され、ふるさと大使の安河内哲也さんを英語教育アドバイザーに迎え、英語教育の授業改善や効率的な授業を行うための改革を進めています。話せる聞き取る英語力を養うため本場の発音で収録されているデジタル教科書を導入。短時間で効率よく学ぶためのICT機器の充実やALT(外国語指導助手)が運営する英語教室の設置により、英語に親しむ環境を提供するなどさまざまな取り組みを行っています。



えもと きよひこさん

昭和26年、北九州市生まれ。岡垣町在住。
全国各地で300回以上の個展を開催している木版画家で、自身の手掛けた作品が、東日本大震災復興事業記念貨幣のデザインに選ばれています。



池田 信太郎さん

昭和55年生まれ。バドミントンの元オリンピック代表選手として、北京オリンピック・ロンドンオリンピックに出場。平成27年9月に現役を引退し、バドミントン日本リーグのアンバサダーに就任されています。



(左から) 下田 瑞葵くん、齊藤 礼くん

バドミントン

岡垣町はバドミントンが盛んで、池田信太郎さんをはじめ、多数のトップ選手を輩出してきました。2017年も岡垣ジュニアバドミントンクラブの下田瑞葵くん、齊藤礼くんが第33回若葉カップ全国小学生バドミントン大会に団体戦のメンバーとして出場し、優勝しました。